

■2013年1月19日（土）トークイベント無事開催しました！

※増田良枝さん（フリースクール全国ネットワーク共同代表 NPO 法人越谷らるご理事長）×三浦淳子監督

雪がまだ残り、足元の悪いなか、たくさんの方にご来場いただきました！

ご自身の経験からフリースクールを設立し活動している増田良枝さん。

三浦監督とは、前作「空とコムローイ」を上映したことからのご縁。

「映画「さなぎ」は、不登校の問題を取り上げた映画ではなく、愛ちゃんという存在そのもの、いのちの成長の記録」であり、監督のあたたかく優しい眼差しを含め、「さなぎ」に表れている自然環境だけではない、あらゆる「豊かさ」の大切さについて、ご自身の経験を交えお話いただきました！



■増田良枝さん

不登校の問題を取り上げた映画じゃなくて、「愛ちゃんという存在そのもの」「いのち」の成長の記録なんだな、と思った。たまたま愛ちゃん是不登校して、三浦さんがカメラを回し始めたけれど、不登校なんて結局振り返ったら問題じゃなかった。愛ちゃんはすてきな感性の持ち主で、感じ方の特徴をみると、学校的なものはとても窮屈なのかな、と。いろんなかたちの学び、成長の場というのがあるといいな、と思う。子どもの世界って学校がほとんどで大人は学校的な価値観で判断してしまう。それが本当に子どもを苦しめているんだな…と自分の経験を通してわかった。それから映画にみる「豊かさ」について。自然の豊かさもあるけれども、家族や友だち、人間関係の豊かさがすごい。愛ちゃんがとてもいきいきしていて、愛ちゃんを肯定的に受け止める眼差しをもった三浦さんの感性も、全て「豊かさ」というキーワードでこの映画ができていくのかな、と思った。学校でも仕事でも、行きたくなくなるのは自然のこと。そういう気持ちになるということは捉えようによっては「前向きになる」こと。学校に行きたくなくなる気持ちを持つというのは、自明のこと。「ダメ」じゃなくて、「じゃあ、どうして生きていこうか」と考えていくといいのかな、と思う。それがすごくこの映画で感じられて、ステキな映画と思った。

■三浦淳子監督

撮影の始まりは、愛ちゃんのお母さんが、増田さんのいう「豊かさ」を広げていきたいと思ってた時に、叔母の和子さんを通じて私も入れてもらった。大体、GWはりんごの花がきれいに咲いて、夏休みには水遊び、秋はりんごの実が赤くなり、冬はどんど焼きとか、除夜の鐘をつきに行ったり・・・「どうしてこの中にカメラが入れたのか」とよく聞かれるけど、愛ちゃんにとって、私は「お友だち」の一人。一年年上の近所のお友だちと遊ぶ時がとても解放されてたようで、映画にでてきたお友だち二人は愛ちゃんが不登校だということをわかかっていなかった。意識されていないことが、愛ちゃんにとっては良かったみたい。今、学校ではとても忙しいと思う。大人だけじゃなくて子ども達たちも、自分のことでいっぱい。そういう中で生きていくと、自分で何したらよいか、何が楽しいのかも分からなくなってくるんじゃないかと。そういう意味では「こういう風に生きていいんだよ」というのを、学校行く行かないにかかわらず、たくさんの方に観てほしいと思っています。



\*劇場トーク後、恒例のカフェトーク\*

1Fのカフェ THEOにてお客さまと交流会。限られた時間でしたが、じっくりお話・交流をすることができました！

～ご来場いただいたみなさま、ありがとうございました～